

「阪神淡路大震災 20 年シンポジウム」

大災害の長期的影響を考える—トラウマと喪失からの復興

企画趣旨

平成 27 年は、平成 7 年の阪神淡路大震災から 20 年目という節目の年にあたる。これをうけて、この震災と復興を、研究所の歩みとともにふりかえるために、公開シンポジウムを開催する。

甲南大学は大震災、在学生 17 名を失ったことをはじめ、甚大な被害を体験した。平成 10 年に設立された人間科学研究所は、震災の経験を背景に、「現代人の心の危機の見極めと、その実践的解決のためのネットワーク形成」を目的として活動してきた。震災にまつわる公開研究会、シンポジウム等の開催など、特に震災とトラウマあるいは PTSD の問題に精力的に取り組んできた。20 年という節目の年に震災と復興の 20 年をふりかえるとともに、他の大災害にも視野を広げ、大災害の長期的作用の理解を深めたい。

日時：平成 27 年 11 月 28 日 13:00～17:30

場所：甲南大学 5 号館 511 教室

プログラム（一部変更の可能性あり）

13:00～13:10 挨拶

13:10～13:25 企画趣旨：森

シンポジスト発題

13:30～14:00 岩井圭司「＜語る＞を背負う—トラウマのもたらす受苦と欲求」

14:00～14:30 高石恭子「学生相談からみる震災後 20 年—幼少期の被災体験が自己形成に及ぼす影響」

14:30～14:50 休憩

14:50～15:20 富樫公一「トラウマの不条理を人生に織りなす過程—9.11 サバイバーのその後」

15:20～16:50 森 茂起「戦争体験にとっての 70 年—＜戦争の子ども＞調査の経験から」

16:50～16:10 休憩

16:10～17:30 パネルディスカッション

シンポジスト発題

岩井圭司「＜語る＞を背負う—トラウマのもたらす受苦と欲求」

高石恭子「学生相談からみる震災後 20 年—幼少期の被災体験が自己形成に及ぼす影響」

富樫公一「トラウマの不条理を人生に織りなす過程—9.11 サバイバーのその後」

森 茂起「戦争体験にとっての 70 年—＜戦争の子ども＞調査の経験から」

パネルディスカッション

事前申込みをお願いしています。メールにてお申込ください。

件名を「公開シンポジウム参加」とし、①参加者氏名、②ご住所、③年齢、④職業をご記入の上、下記メールアドレスに、お送りください。

お申込み先 Kihns_info@yahoo.co.jp

岩井圭司 Keiji Iwai

精神科医師。兵庫教育大学大学院教授、(公社)ひょうご被害者支援センター 副理事長、日本トラウマティック・ストレス学会会長。専門は精神病理学。主たる関心領域はPTSDをはじめとする心的外傷関連領域、および統合失調症。共訳にH.S. サリヴァン『分裂病は人間的過程である』(みすず書房、1995)。共著に『復興と支援の災害心理学 : 大震災から「なに」を学ぶか』(福村出版、2012)、『大災害と子どものストレス : 子どものこころのケアに向けて』(誠信書房、2011)など。

高石恭子 Kyoko Takaishi

甲南大学文学部教授・学生相談室専任カウンセラー(臨床心理士)。専門は臨床心理学。学生相談の実践を長く行うと同時に、甲南大学人間科学研究所兼任研究員として、乳幼児期から青年期にかけての親と子の関係や子育て支援の研究も行う。主著に「臨床心理士の子育て相談」(人文書院)(2010)、「子別れのための子育て」(編著、平凡社)(2012)、「学生相談と発達障害」(2012)(共編著、学苑社)、訳書に「女性が母親になるとき」(H.レーナー、誠信書房)(2001)、「ヒルガードの心理学第16版」(金剛出版、分担訳)(2015)など。

富樫 公一 Koichi Togashi

臨床心理士。米国NY州精神分析家ライセンス。米国NAAP認定精神分析家。博士(文学)。専門は精神分析、臨床心理学。現在甲南大学文学部教授。国際自己心理学会評議委員、同学会学術誌編集委員。日本精神分析学会編集委員。主な受賞歴に2006年米国NAAPグラディバ賞(最優秀訓練生論文)、2009年同賞(最優秀学術論文)。主著に『Kohut's Twinship Across Cultures: The psychology of being human』Routledge(2015)、『ポストコフートの精神分析システム理論—現代自己心理学から心理療法の実践的感性を学ぶ』(誠信書房、2013)、『関係精神分析入門—治療体験のリアリティを求めて』(岩崎学術出版社、2011)。

森 茂起(もり・しげゆき) Shigeyuki Mori

臨床心理士。専門は臨床心理学、トラウマ学。甲南大学文学部人間科学科教授。甲南大学人間科学研究所 兼任研究員。『トラウマ映画の心理学—映画に見る心の傷』(新水社、2002年)、『トラウマの発見』(講談社、2005年)『埋葬と亡霊—トラウマ概念の再吟味(心の危機と臨床の知)』(人文書院、2005年)ほか。翻訳『ビオン臨床入門』(金剛出版、2003年)、『精

神分析への最後の貢献—フェレンツイ後期著作集』（共訳：岩崎学術出版社、2008年）、『ナラティブ・エクスポージャー・セラピー』（共訳：金剛出版、2010年）、『死別体験 - 研究と介入の最前線』（共訳：誠信書房、2014年）ほか